

COVID-19 と ダイヤモンドプリンセス号 (海外メディア・政府などのコメント—備忘録)

北東アジア輸送回廊ネットワーク理事・鈴木勝 (大阪観光大学名誉教授/元桜美林大学教授)



[備忘録の意図] COVID-19 が中国・武漢で発生し、その直後、横浜港のダイヤモンドプリンセス号は、“感染一大クラスター”として世界の耳目を集めた。何と云っても、その拡大要因は日本政府の「初期動作の拙さ」に加えて、「情報発信の不適切さ」ではなかろうか。さらに国内外のメディアから批判の集中砲火を浴びる一方、船籍国イギリスやクルーズ・マネジメントに責任を負うアメリカに加えて、関係諸国の“傍観者的姿勢”にも起因していた。ところで、初期段階のダイヤモンドプリンセス号の“遅れた船内隔離”対応は、日本での大量感染を未然に防いだことを考えれば、“結果オーライ”と言えそうだ。その後、クルーズ感染者に関して、アメリカやオーストラリアで同様な事例が発生したが、横浜の経験がうまく生かされたとは言い難い。オーストラリアでは大失敗と言ってよい。それらに対し、海外メディアから日本のように厳しい批判を浴びせていない。急先鋒で批判した国々は、自国に“火が点き”制御できず、現在、忙殺されている。ダイヤモンドプリンセス号は世界から非難されて仕方がない点もあったが、それにしても酷いもの。本備忘録は、世界のメディアや組織、特に、当クルーズの船籍や経営を担う国々のイギリスやアメリカのコメント(主に、批判)を記憶に留める意味を含め、調査できる範囲内で拾った次第である。

[ダイヤモンドプリンセス号の対応に関するコメント]		資料) Wikipedia etc. <sup>1</sup>
国・組織	内 容	
1 イギリス	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ザ・サン(The Sun)「ダイヤモンドプリンセス「疫病船」と見出し。「隔離計画にしくじって、中国本土以外で最大の感染拡大を引き起こした」と日本の対応を非難。(2/18)</li> <li>●ザ・ガーディアン「感染で煮え立っている鍋だ」と専門家の言葉を紹介(2/18)</li> <li>●BBC「ダイヤモンド・プリンセス乗客2人死亡 政府の感染対策に批判も」(2/20)</li> </ul>	
2 アメリカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ウォール・ストリート・ジャーナル「船内感染が拡大した点に2週間も船内に大勢を押し込めた日本政府の方針に、日本国外の専門家からは疑問の声が上がっている」と指摘(2/17)</li> <li>●ニューヨークタイムズ「ダイヤモンドプリンセスは今や海に浮かぶ小型版の武漢だ」(2/10)</li> <li>「公衆衛生の危機対応で『こうしてはいけません』という教科書の見本のような対応」(2/18)</li> <li>●タイム誌「感染率は9.6%に上昇したことになる。10人に1人という感染状況になるのも時間の問題。中国での感染率をはるかに凌ぐ、世界一の感染率だ。」(2/18)</li> <li>●ワシントン・ポスト「日本政府がなぜもっと早く乗客の検査をし、下船させるための迅速な対応が取れなかったのか疑問だ。船にいる乗客乗員は感染の危険にさらされ続ける」と指摘、「これは基本的人権の侵害だ」と評した。(2/13)</li> <li>●ブルームバーグ「(日本が)世界で最も危険な場所の一つになりつつある」(2/19)</li> <li>●ABC「クルーズ船の検疫は、利益よりも害をもたらしているのではないかと疑問視する専門家もいる。」「日本の港で感染の第2の震源地が作り出されている懸念がある。」(2/17)</li> </ul>	

		●HUFFPOST「感染拡大の第二の震源地を作った」(2/15)	
3	CDC 米疾病対策センター	●「船内の人々の間で感染を防ぐには不十分だったかもしれない」「隔離のための日本政府の途方もない努力を称賛する」と評価。	
4	米国立アレルギー感染症研究所	●「隔離は失敗した」と断言。「船の中でどんどん感染した。船内で隔離が甘かったからだ」と批判した。(2/17・アメリカ紙USA TODAY)(NIAIDアンソニーファウチ所長)	
5	カナダ	●カナダ放送協会(CBC)「選択肢は限られていた分、日本政府はもっと迅速に行動しなければならなかった」(2/18)	
6	ロシア	●タス通信/ノーボスチ通信「(ザハロワ外務省情報局長発言)「日本の対応は混沌として場当たりのだ」と非難。(2/11)	
7	チェコ	●プラハ・ポスト Prague Post「船は巡航途中で感染が蔓延していた」「船籍国のイギリス、所有法人の国籍であるアメリカは何もしなかった」「日本政府は乗客のウイルス検査と管理対策の実施に最善を尽くした」	
8	中国	●環球時報「米政府の今回の日本への対応はひどい」「最初は見ても見ぬふり、その後自国民を帰国させる際に混乱を生んだ。しかも帰国過程で日本に責任を押し付けた」「同盟国でありながら、米国はちっとも日本を支援しない。」(2/21) <sup>2</sup>	
9	WHO	●「WHO、日本の当初判断『適切』」「船内で2週間待機させた日本政府の措置について『世界中に乗客が散らばってしまうよりは明らかに好ましかった』と述べ、当初の日本の判断は適切だった。ただし、感染者が増え続けるなど状況が悪化したことについては『残念だった』『船やホテルでは、ウイルスの感染拡大がより効率的に起きてしまう環境になることもある』(2/19 共同)	
10	一般読者	●「英紙は、船籍が自国でありながら、何もしていないことをまず恥じるべき」 ●「英国、米国クルーズ会社、船長からは何のコメントもない」など。	
11	クルーズ会社	イルミネーション「ARIGATO JAPAN」(facebook3/25) (消毒を終えたダイヤモンドプリンセス号のメッセージに10万人が感動)	

追1)メディアの内、Prague Post 分析レポートは秀逸である。世界各国の読者から多くの賛辞がある<sup>3</sup>。  
追2)「ダイヤモンドプリンセス号」と同様例が世界で発生。米国や豪州で大量の感染者・死者を出す(米グランドプリンセス号—感染者103名・死者2名、豪ルビープリンセス号—感染者662名・死者19名)。  
追3)WHOは世界各国・地域の感染者数、死亡者数をまとめている。“International conveyance (Diamond Princess) :712 cases”という数字があるが、米豪などのクルーズ船の数字は見当たらない。  
(なお、本備忘録は、機会があれば英文にて発表を考えている。 (了))

<sup>1</sup> [https://en.wikipedia.org/wiki/COVID-19\\_pandemic\\_on\\_Diamond\\_Princess](https://en.wikipedia.org/wiki/COVID-19_pandemic_on_Diamond_Princess)  
<https://www.jiji.com/jc/article?k=2020022000889&g=int&https://www.sankeibiz.jp/economy/news/200330/ecb2003300655001-n11.htm>  
<https://gendaiismedia.jp/articles/-/70480>  
<http://www.t-tooru.com/blog/%E3%82%A6%E3%82%A3%E3%83%AB%E3%82%B9%E6%8B%A1%E5%A4%A7%E3%81%AF%E4%BA%BA%E7%81%BD%E3%81%8B/>  
<https://www.huffingtonpost.jp/entry/story.jp.5e4742c3e5b64d860fca44bb>  
<https://www.nyseikatsu.com/ny-news/02/2020/28446/> [https://scienceportal.jst.go.jp/news/newsflash\\_review/newsflash/2020/02/20200220.01.html](https://scienceportal.jst.go.jp/news/newsflash_review/newsflash/2020/02/20200220.01.html)  
<sup>2</sup> [https://www.excite.co.jp/news/article/Recordchina\\_20200222004/](https://www.excite.co.jp/news/article/Recordchina_20200222004/)  
<sup>3</sup> <https://www.praguepost.com/world-news/coronavirus-diamond-princess-debacle>